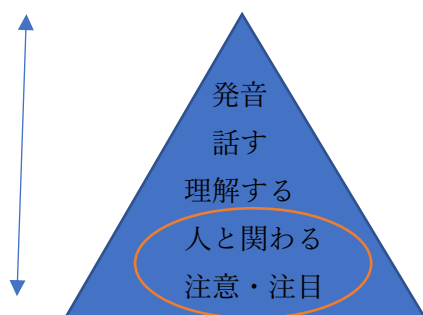


○言語発達障がい：正常発達に比べて言語習得が遅れた状態

- ・ことばの数が少ない、発音がはっきりしていない等

言語獲得のピラミッド



相互に関係しあって発達していく、特に下部は言語獲得初期にこの力が必要。

○発語に必要なレティネス

基本的認知：見える・聞こえる

喃語：発声できる

三項関係：共感性 ※強くするものは共感する力

アイコンタクト：コミュニケーション

象徴機能（見立て遊び）：記憶・意味を結びつける力

ターンテイキング：やりとり

身近な名詞：オノマトペの理解・知的機能

○指差しの種類

- ・自発の指差し（11ヵ月）・要求の指差し（1歳頃）
- ・共感の指差し（1歳過ぎ）・応答の指差し（1歳半ごろ）

○言語発達のステップ

9ヶ月頃：認知機能・永続性・手段目的関係・共同注意

1歳頃：初語 1歳半：語彙爆発 2歳：2語文 3歳：3語文

○会話のステップ

2歳前半：「今ここ」だけ 2歳後半～3歳前半：：話題が現前事象から非現前事象へ

3歳後半～4歳：連想による話題逸脱から話題の維持へ（支離滅裂から完結）

5,6歳：冗長な説明から要約した説明へ（ダラダラ話からスッキリ話）

○疑問詞の育ち

1歳半～2歳：なに？どっち？ 2歳前半～中ごろ：だれ？どこ？

3歳前後：どうやって？ 3～4歳：なぜ？どうして？

○課題設定時の配慮

- ・発達段階に合っているか
- ・課題の静と動のバランスはどうか
- ・達成できるかどうか
- ・生活場面で生かせる課題か
- ・保護者ニーズに合っているか

○ことばの育ちのために

- ・ことばのシャワーは△
- ・むしろ非言語コミュニケーションの方が大切

○こどもとの会話で気を付けたい事

- ・子どもの会話が逸れやすい場合には子どもの言ったことを要約しながら会話を進めてあげる
- ・まずは本人が経験した事があることから
- ・絵本を使って疑似体験をしその中で少しでも未体験の事柄を入れてみる
- ・話が冗長な時はさりげなく話をまとめて聞かせる

○ことばを引き出す技術

- ・注意を引き付けてから話す
- ・あえて届かないところに置く
- ・子どものことばをとにかく真似る
- ・選択肢を出す

○保護者面接

- ・保護者支援もまた発達支援には不可欠
- ・保護者とのコミュニケーション
- ・子どもの情報を収集し状態を把握すると同時に保護者との信頼関係の構築も目的の一つ
- ・単に情報を伝えるだけでは保護者にとって満足な提案とならないことがある
- ・保護者のニーズを丁寧に聞き取ることが肝心